

学校通信

2022年 3月11日
みやこ町立豊津中学校
校長 吉田 武志

季節的には今ではないが、太陽に向かって咲くひまわりは、強い生命力を感じさせる。その「ひまわり」を題名とした映画があった。第二次世界大戦中、新婚の夫(マルチェロ・マストロヤン)が招集され、妻(ソフィア・ローレン)と離ればなれになってしまう。戦争が終わっても戻ってこない夫を探しにソ連に探しに行く妻……戦争によって



引き裂かれた愛の物語を、一面に広がるひまわり畑と哀愁に満ちたBGMで印象的に綴った名画だった。そのひまわり畑のロケ地がウクライナだったということを最近知った。ヨーロッパの穀倉地帯として知られるウクライナは、冬は厳寒に見舞われるが、夏は大変心地の良い気候となり、南部の農地には国花であるひまわり畑が広がり、夏の青空と黄金のひまわりの花が咲き乱れる美しい国らしい。そのウクライナが今、戦火で荒らされている。砲弾によって破壊された建物、乗り捨てられた装甲車、機関銃を持った兵士、病院へ担ぎ込まれる子ども、恐怖におびえる市民、家族と別れて避難する人々……愛する人を、故郷を、日常を、平和を、理不尽に奪われた人々には、絶望と憎しみしか残らない。戦争とはそういうものだ。1日も早くウクライナに平和な日が戻ることを強く願う。

それぞれの夢に向かって豊津中を巣立っていきました

10日(木) 本校第75回卒業証書授与式を執り行いました。新型コロナウイルス感染防止対応により、列席者の制限や式次第の変更を行いました。42名の卒業生は新たな世界へ巣立っていきました。

昨年秋に歌った学年合唱をはじめ3年間の思い出のスライドを鑑賞した保護者の中を卒業生が入場し、式が始まりました。まず、担任による点呼の後、3年生総代が証書を受けました。続いて私は式辞として、スピードスケーターの小平奈緒さんの「与えられるものは有限、求めるものは無限」の言葉をもとに、「人から与えられるのを待つのではなく、自ら探し求めて行動することが大切になる。」を門出の言葉として贈りました。その後、在校生を代表して参列した生徒会長(2年)の「笑顔を絶やさず、できることに全力を注ぐ先輩方の姿は、とても頼もし



証書授与



送辞

く、私たちに勇気と安心感を与えてくださいました。」の心温まる送辞を受け、卒業生代表が、体験学習や行事の思い出、コロナで知った「日常」の大切さ、支えてくれた友人・保護者・恩師への感謝の気持ちを述べ、「この豊津中学校で学んだことを活かし、自分の夢を実現させたいと思います。」と決意に満ちた答辞を述べました。感染予防で合唱はできませんでしたが、心のこもった素晴らしい式でした。

3年生の教室飾りや卒業生へのメッセージ作成など、卒業式の準備を心を込めて行ってくれた1、2年生の皆さんにも感謝します。



答辞



高校入試を終えて・・・

高校入試を振り返ります。3年生は、1月の私立推薦から3月の公立一般まで、それぞれの進路を目指し受験に臨みました。新型コロナウイルスにより、受験の影響を心配されましたが、全員無事受験を終えることができました。職員も、面接や作文(推薦受検生)の指導と、連日息つく暇のない日々でした。入試は定員が決まっていますから、不合格もあります。3年間の学校での成績(内申点)と当日の試験の成績で合否が決まります。最近の傾向として、複数の資料を読み取るものや〇〇と判断した理由を一定の条件の下、文章で書かせる問題が多くなりました。いわゆる“思考力、判断力、表現力を問う問題”です。また、高等学校就学支援金制度や大学進学、部活や専門コースの特色化で、私立高校進学志望も増えました。その結果、以前より狭き門になってきたような印象です。本校では授業や補充学習を今後も充実させ、学力向上を図りたいと考えます。みなさんも、日ごろの授業を大切に、“力”をつけて下さい。

今日は東日本大震災追悼の日

東日本大震災では、場所によっては30mを超える津波が発生し、15,900人が亡くなり、いまだ2,500人以上の方が行方不明となっています。その一人一人に愛する家族や友人がいました。日本は地震や台風、大雪などこれまで多くの災害に見舞われてきました。そのたび、人々は力を合わせ、乗り越え、次に備えてきました。災害の惨劇を忘れず、教訓にすることが、犠牲者に報いることだと思います。今日は追悼の日、学校では半旗を掲げ、黙とうをしました。